

＜戸川幸夫 簡易年譜＞

年代	年齢	事項
1912(明45)	0	4月15日、佐賀県鍋島村に、父・前田幸三(こうぞう)、母・艶(つや)の長男として誕生。経済的な理由などで、生後まもなく若松市の実業家・戸川益男(ますお)、イノの養子となる。艶とイノは姉妹であり、益男は幸三を医者にするために何かと援助していたため、同居していた。
1918(大7)	6	八幡市(現在の北九州市八幡区)の小学校に入学する。
1919(大8)	7	実母が病死。
1922(大11)	10	小学校4年生の時、益男の事業拡大のため、一家をあげて上京。東京都新宿区にある、私立高千穂小学校に転校す
1925(大14)	13	私立高千穂中学校に進学する。新宿区西大久保の貸家に暮らす。卒業する頃、目黒区自由ヶ丘に引っ越しをする。
1932(昭7)	20	旧制山形高等学校に入学。いずれは東北帝大で古生物学を学ぶ意思を持ち、「理甲」を選択していた。
1936(昭11)	24	旧制山形高等学校を退学処分。
1937(昭12)	25	御手洗辰雄の推薦で、東京日日新聞社社会部に入社す
1939(昭14)	27	聖路加病院に入院。ハンセン氏病の作家・北条民雄の『吹雪の産声』などを読み、それ以後文学書を読むようにな
1940(昭15)	28	毎日新聞特派員として、モンゴル地方へ行く。
1942(昭17)	30	海軍報道班員として、フィリピンやボルネオ、セレベスなどの南方方面へ行く。
1944(昭19)	32	台湾新竹海軍航空基地付きとなり、沖縄戦に従軍。
1946(昭21)	34	サン写真新聞に出向。
1947(昭22)	35	毎日新聞の同僚と、同人雑誌『新聞記者』を創刊。
1948(昭23)	36	新聞社の演劇部で出会った絹川喜美江(きぬかわ きみえ)と結婚。
1949(昭24)	37	長女、文(あや)誕生。養父死去。
1950(昭25)	38	毎日新聞社社会部副部長となる。毎日グラフ編集次長などを歴任。
1952(昭27)	40	次女、久美(くみ)誕生。
1954(昭29)	42	長谷川伸に師事し、新鷹会(二六日会)に参加。「君も何か書いてみれば」と勧められ、『高安犬物語』を執筆。12月の「大衆文芸」に発表し、第32回直木賞を受賞する。
1955(昭30)	43	12月、毎日新聞社を退職し、作家生活に入る。
1956(昭31)	44	文芸春秋まつりの文士劇「宮本武蔵」で、「吉岡源左衛門」役で初舞台を踏む。
1962(昭37)	50	『子どものための動物物語』で、サンケイ出版児童文学賞を受賞する。
1963(昭38)	51	長谷川伸、死去。
1965(昭40)	53	沖縄、西表島に新種のヤマネコを発見。「イリオモテヤマネコ」と命名する。
1978(昭53)	66	『戸川幸夫動物文学全集』にて、芸術選奨文部大臣賞を受賞する。
1981(昭56)	69	動物文学に尽くした功により、紫綬褒章を受ける。
1994(平6)	82	春、脳梗塞で倒れる。車椅子で、自宅療養となる。
1997(平9)	85	娘、久美がトラ・ゾウ保護基金を立ち上げる。
2004(平16)	92	肺炎を患い、再び入院する。5月1日、永眠。